

交流ひろば

古代の都・長安を訪ねて

かつて千年以上にわたって中国の都であった長安（現代の西安）を訪れました。今から45年前、2200年ぶりに地下から発掘された秦・始皇帝の兵馬俑、歴史博物館、玄宗皇帝の妃となった楊貴妃の住んでいた華清宮、歴代の書家による名筆が石碑に刻まれている西安碑林などを書家である魚住講師と日中文化史を専門とする山田の二人でご案内しました。

西安は1941年に張学良や楊虎城が上司の蒋介石を逮捕して抗日戦争を迫るといふ事件（西安事変）のあった土地でもあります。東の都・洛陽に対して西の都とも呼ばれており、東西の都を同時に訪れたいという希

望も出ていましたが、日程の関係で今回は西安だけの旅になりました。来年、できれば洛陽を訪問したいと考えています。

（友の会顧問 山田 敬三）



三蔵法師像と大雁塔



碑林の前で

神戸中華同文学校創立120周年に思う

本校は、今年めでたく創立120周年の慶節を迎えました。戦後第四代校長として誠に意義深く喜びに堪えません。

本校は、1899年に梁啓超氏の提唱の下、「神戸華僑同文学校」として創立され、初代名誉校長に犬養毅先生を迎えました。神戸中華同文学校は神戸華僑の先輩、諸先生方が艱難辛苦を乗り越え、築いてこられた歴史と伝統のある学校です。校舎建設に於いては『有錢出錢、有力出力』の精神の下、全華僑一丸となって、1959年の校舎建設に取り組みました。今、学校があるのは、多くの華僑、日本の友人の物心両面の支援のためのもので、生徒には感謝の気持ちと、社会に対する貢献の大切を教えています。また、本校の良き校風——即ち校内では上級生が下級生をいたわり、思いやる『団結友愛、互敬互助』の精神は、いつの時代にあつて

も最も重要なことであり、教育の不易の部分です。他人を思いやる温かい心と感謝の気持ちを忘れてはなりません。また、教育現場に於いては、中国語と中国文化を習得させるとともに、日本の教育課程をも踏まえた教育を施し、広い視野に立った国際性を身に付け、将来地域社会の発展と日中友好交流促進のために貢献できる人材の育成を目標にしています。

神戸中華同文学校名誉校長 愛新 翼



『「健康長寿」社会の実現と先進医療分野の国際連携』を受講して

中文同好会の活動の一環として、2019年4月27日に神戸大学瀧川記念学術交流会館で開催された上記のセミナーに参加してまいりましたので、その概要を報告します。会館の場所は文理農学部キャンパスの南端にあり、そこから眼下に広がる神戸の街並みや、遠くは和歌山の方まで見渡せる大阪湾の眺望は絶景でした。セミナーは「開題」（オープニングテーマ）と、続く二つの講演と一つの補講、休憩、パネルディスカッションで締め括られました。受講者は学生、一般参加者を合わせ100名弱。参加者の意識は高く、質疑応答は活発でした。プログラムは以下のとおりです。

開題：「黄磷」神戸大学大学院経営学研究科教授、アジア総合学術センター副センター長による、セミナーの導入。マーケティングの専門家らしく、高齢化率による日中の分類や健康長寿社会の市場規模について言及があった。

講演①：「現下の日中関係と各分野における日中協力」外務省外交調整官・神戸市外国語大学客員教授の岡田

勝氏より日中両国の国民感情、現下の日中関係、健康中国2030というスローガンについて説明があった。

講演②：「神戸医療産業都市の推進」

神戸市医療・新産業本部医療政策担当部長、神戸医療産業都市推進機構クラスター推進センター長の佐藤岳幸氏よりポートアイランドの南に出来た「神戸医療産業都市」の現状と今後のグローバルブランド化への意欲の説明があった。

補講：神戸大学大学院システム情報研究科教授の羅志偉氏の技術・文明の移転が模倣で促進され、養子防老（子を育て老人を守る）から養国防老さらに養技防老（技術を向上させ老人を守る）へとシフトしつつあることの説明が印象深かった。

（中国文化論語と漢詩同好会 安部 誠）

